

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

岩手県岩手町

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

岩手町SDGs未来都市計画

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

岩手町SDGs未来都市計画 トリボトラインによる〇〇町の持続可能性向上モデルの構築・実証 ～ SDGs姉妹都市 × リビングラボ ～

(2) 2030年のあるべき姿

SDGsの理念・ゴールを道標として、岩手町に関わる全ての人々が主体的に、互いに連携・協力し合って町の持続可能性を高めていくことに深い喜びと誇りを感じている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	農業粗生産額 【8.2,8.3,8.5,9.1,9.4,9.5,12.2,12.a】	2017年 135 億円	2020年 132 億円	2030年 150 億円	-20%		
2	林業生産額 【12.2,12.a,13.1,13.2,15.1,15.2,15.3,15.4,15.5】	2015年 3 億円	2020年 3.8 億円	2030年 6 億円	27%		
3	1人当たりの農業生産額 【2.3,2.4,8.1,8.2】	2015年 3,130 千円	2020年 4,765 千円	2030年 3,440 千円	527%		
4	農畜産物海外出荷額（加工品含） 【2.3,2.4,8.1,8.2】	2020年 0 千円	2020年 0 千円	2030年 1,000 千円	0%		
5	SDGs姉妹都市提携都市数 【17.16,17.17】	2020年 0 都市	2020年 0 都市	2030年 5 都市	0%		
6	観光客入込客数（関係人口/交流人口含む） 【8.2,8.3,11.a】	2018年 27.6 万人	2020年 18.7 万人	2030年 40.0 万人	-72%		
7	単年度当たりの新規起業数 【8.3,8.5】	2019年 2 事業者	2020年 2 事業者	2030年 5 事業者	0%		
8	リビングラボや起業塾によって実施された課題解決型プロジェクトの数 【8.2,8.3,8.5,8.10】	2019年 0 プロジェクト	2020年 0 プロジェクト	2030年 120 プロジェクト	0%		
9	健康管理を行っている人の割合 【3.b】	2019年 47 %	2020年 47 %	2030年 60 %	0%		
10	障がい者就業者数 【8.5,11.3】	2019年 63 人	2020年 78 人	2030年 88 人	60%		
11	SDGs姉妹都市提携都市数 【17.16,17.17】【再掲】	2020年 0 都市	2020年 0 都市	2030年 5 都市	0%		

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度 （%）
12	観光客入込客数（関係人口/交流人口含む） 【8.2,8.3,11.a】【再掲】	2018年	28 万人	2020年	18.7 万人	2030年	40 万人	-72%
13	単年度当たりの新規起業者数 【8.3,8.5】【再掲】	2019年	2 事業者	2020年	2 事業者	2030年	5 事業者	0%
14	リビングラボや起業塾によって実施された課題解決型プロジェクトの数 【8.2,8.3,8.5,8.10】【再掲】	2019年	0 プロジェクト	2020年	0 プロジェクト	2030年	120 プロジェクト	0%
15	ごみ排出量の抑制 【11.6】	2019年	3,963 t/年	2020年	3,792 t/年	2030年	3,489 t/年	36%
16	自然エネルギー（公共施設） 【7.2,7.b】	2019年	115.8 kw/年	2020年	115.8 kw/年	2030年	1,000 kw/年	0%
17	SDGs姉妹都市提携都市数 【17.16,17.17】【再掲】	2020年	0 都市	2020年	0 都市	2030年	5 都市	0%
18	観光客入込客数（関係人口/交流人口含む） 【8.2,8.3,11.a】【再掲】	2018年	27.6 万人	2020年	18.7 万人	2030年	40 万人	-72%
19	単年度当たりの新規起業者数 【8.3,8.5】【再掲】	2019年	2 事業者	2020年	2 事業者	2030年	5 事業者	0%
20	リビングラボや起業塾によって実施された課題解決型プロジェクトの数 【8.2,8.3,8.5,8.10】【再掲】	2019年	0 プロジェクト	2020年	0 プロジェクト	2030年	120 プロジェクト	0%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

No.1「農業粗生産額」については、人口減少により総農家数が減少したことで、生産額についても減少傾向となっている。現在大規模畜産事業体の誘致や集積化による生産額拡大施策を実施していることから今後増加へ転じると思われる。また、No.3「1人当たりの農業生産額」については同様の理由で母数が減っているが生産額を維持しているため1人当たりの額が増加した。

No.4「農畜産物海外出荷額（加工品含）」、No.5「SDGs姉妹都市提携都市数」、No.7「単年度当たりの新規起業者数」、No.8「リビングラボや起業塾によって実施された課題解決型プロジェクトの数」については、昨年度コロナ感染症の影響により事業推進できず、2021年度より本格始動となる。また、No.6「観光客入込客数（関係人口/交流人口含む）」についてもコロナ感染症の影響により各種イベントが中止となり、減少した。

No.9「健康管理を行っている人の割合」については、昨年度コロナ感染症の影響により事業推進できず効果検証できていないため状況は変わっていないとして当初値のままとする。

No.16「自然エネルギー（公共施設）」については、2020年度環境・エネルギー戦略構想の素案を作成し、自然エネルギー導入の可能性調査を実施している。また、2021年度自立・分散型エネルギー供給施設の設置可能性調査を実施し、太陽光エネルギーの効率的な運用を検討している。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	町の農業文化を体系化し、SDGsの観点から磨き上げていくことで、世界に誇れる「アグリカルチャー/アート」を共創する。	指標：新たな商材開発・販路開拓による販売額	2019年 0千円			2020年 0千円	2022年 6,000千円	0%
2	町の農業文化を体系化し、SDGsの観点から磨き上げていくことで、世界に誇れる「アグリカルチャー/アート」を共創する。	スマート農業等実施農家数	2019年 1件			2020年 2件	2022年 5件	25%
3	町が地域ぐるみで展開してきた健康福祉・スポーツ分野の取組を総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「スポーツカルチャー/アート」を共創する。	あいあいバス・タクシー利用者数	2018年 9,169人			2020年 7,438人	2022年 10,000人	-208%
4	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	光ブロードバンド未提供地域	2020年 99地域			2020年 99地域	2022年 0地域	0%
5	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	安心生活あいネット事業実施地区数	2019年 38地域			2020年 40地域	2022年 50地域	17%
6	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	森林セラピー参加者数	2019年 203人			2020年 179人	2022年 300人	-25%
7	町が地域ぐるみで展開してきた健康福祉・スポーツ分野の取組を総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「スポーツカルチャー/アート」を共創する。	IT/ICT導入集会施設等	2019年 0箇所			2020年 0箇所	2022年 10箇所	0%
8	町が地域ぐるみで展開してきた健康福祉・スポーツ分野の取組を総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げることによって、世界に誇れる「スポーツカルチャー/アート」を共創する。	健康いきいきサロン実施地区数	2019年 62箇所			2020年 62箇所	2022年 65箇所	0%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
9	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げること、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	耕畜連携実施農業者数	2018年 121 人			2020年 107 人	2022年 127 人	-233%
10	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げること、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	年間延べ林業作業日数	2015年 18,331 人日			2020年 15,361 人日	2022年 20,000 人日	-178%
11	町の豊かな自然資源を活かす創造的な営みを総合化・体系化し、SDGsの観点から磨き上げること、世界に誇れる「クラフトカルチャー/アート」を共創する。	再生可能エネルギー発電装置設置施設(公共施設)	2019年 0 施設			2020年 0 施設	2022年 5 施設	0%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

自律的好循環の形成を促すため、リビングラボにおいて外部人材、企業を積極的に参入させ、新たな視点、先進的技術の導入によって、町の課題解決を推進するプロジェクトを実施している。またSDGsのゴールを達成するためラボに参加する企業についてパートナー制度の導入を検討するほか、独自のSDGs認証制度を2021年度中に発足するべく、制度設計を実施中である。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

No.1「新たな商材開発・販路開拓による販売額」については、2020年度に既存商材のリブランディング新規商材の発掘を実施し、販売開始に向けた動きを加速させている。No.3「あいあいバス・タクシー利用者数」については、コロナ感染症の影響により外出機会が減少していることにより利用者も減少傾向であることが要因。No.4「光ブロードバンド未提供地域」については、2020年度に実施設計、2021年度に事業実施のため。No.6「森林セラピー参加者数」については、コロナ感染症の影響によりイベントを中止していることにより利用者も減少傾向であることが要因。No.7「IT/ICT導入集会施設等」については、2021年度に事業実施。No.8「健康いきいきサロン実施地区数」については、コロナ感染症の影響によりイベントを中止していることにより利用者も減少傾向であることが要因。No.9「耕畜連携実施農業者数」については、母数である総農業者数が減少していることが要因で、割合では同程度、もしくはやや増加傾向である。No.10「年間延べ林業作業日数」については、林業従事者数の減少が主な要因で、農林業従事者の新規参入者を増加させることが課題。No.11「再生可能エネルギー発電装置設置施設(公共施設)」については、2020年度に総合戦略の素案を作成し、2021年度基礎調査後、事業化の予定。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・一人当たり農業生産額が著しい進捗を見せているのは素晴らしい、評価できる。
 ・耕畜連携実施農業者数が伸び悩んでいるように感じるが、計画を再検討が必要ではないかと思料する。
 ・様式2ではリビングラボによって住民主体の課題解決型プロジェクトが6事業、起業塾から新規起業家4件、と報告されているが、様式1の進捗評価シートではいずれもゼロと記述されており、進捗状況の把握が困難である。外部人材を投入したリビングラボの課題整理と自治体規模を考慮すると広範囲で野心的な構想を絞って、まず、小規模でよいリビングラボの成功事例をつくることに注力されるとよいと思料する。